

【十月の言葉（平成二十七年）】

救いとは、

良い結果（自己の満足）を得ることではなく、

確かな因（いん 依りどころ）よを得ることです。

どの宗教も「救い」ということを説いていますが、「救い」とは
どういうことでしょうか？

一般に救いとは、願いが叶かなうとか、苦しみが解決するとか、良い
結果を得ることをいいますが、仏教で救いとは、自己の満足する良
い結果を得ることではなく、確かな因を得ることをいいます。

因とは、依りどころ、支え、土台です。

確かに良い結果を得ることは、うれしいことです。人々は良い結
果を得たいと願っています。しかし良い結果を得たとしても、それ
がいつまでも続く保証はありません。無常の世の中、いつ悪い果が
起こるかわかりません。

良い果を得ることではなく、確かな生きる支え、依りどころとな
る因を得ることではなければ、本当の救いとはいえません。